

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護論概論
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	2単位(30 時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 地域で暮らす人々の生活や行われる看護の特徴を理解し、支援につなげる基礎的な能力を養う。 目標: 1 地域で暮らす人々の生活を理解し、健康との関連が理解できる。 2 地域で行われる看護の概要が理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 地域で暮らす人々の生活と健康	6	1 人々の暮らし 1)暮らしとは 2)生活者としての人間 3)健康の定義 4)健康と生活 2 地域・在宅看護の基盤となるもの 1)地域・在宅看護とは 2)地域・在宅看護の対象(個人・家族・集団・コミュニティ) 3)看護活動の場の広がり 3 地域での看護活動の変遷 4 地域・在宅看護活動に必要な基本理念 1)セルフケア理論 2)プライマリヘルスケア 3)ヘルスプロモーション 4)アドボカシー 5)行動変容 6)家族看護 7)ケアマネジメント	
2 暮らしを基盤とした地域の特徴	18	1 暮らしと地域 ※1 1)地域の定義 2)人々の暮らす地域の多様性とその考え方 2 地域包括ケアシステムと地域共生社会 1)地域包括ケアシステムと社会資源 2)地域での生活を支える組織活動 3)看護の継続性(療養の場の移行に伴う看護) 4)多職種の間機能と役割・協働・連携 5)看護職の役割	
3 地域・在宅看護に関わる制度とその活用	2	1 地域・在宅看護にかかわる法律と施策 1)介護保険・医療保険制度 2)地域・在宅看護に関わる法制度	
4 在宅看護における看護倫理	3	1在宅看護の倫理的課題 1) 在宅看護における権利保障 2) 倫理的課題と自己決定	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、レポート、グループワーク発表		

テキスト	医学書院 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践
参考資料	ピラールプレス 看護師のための地域看護学 ナーシンググラフィカ 地域在宅看護論① 地域療養を支えるケア
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 グループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。
備考	※1 はフィールドワークを行う。 単元2 生活環境の変化と健康問題の実際では、地域での暮らしを知り、暮らしと健康のつながりや、地域包括ケアシステムの推進についての理解ができるようグループ別にフィールドワークを行い、グループ発表で結果を共有する。 基礎看護学実習Ⅰにつながる内容となっている。

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護論援助論Ⅰ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	2年次
<p>目的: 多様な場で提供される看護を理解し、地域での支援を行うための看護技術の知識を養う。</p> <p>目標: 1 地域・在宅看護の提供方法と看護師の役割が理解できる。 2 継続看護の必要性を理解し、様々な職種や関係機関との連携が理解できる。 3 在宅看護における安全管理について理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 在宅看護の提供方法と対象への看護	2	1 広がる看護の対象と提供方法 1)看護の実践方法の広がり(外来、訪問、施設、地域) 2)地域・在宅看護における看護師の役割 2 地域・在宅看護の対象への看護 1)人々のニーズに応える看護 2)地域における家族への看護	
1 地域・在宅看護における継続看護とチームケア	6	1 地域・在宅看護のマネジメント 1) マネジメントとは 2) 多様な場におけるマネジメント(療養の場の移行に伴う看護) 2 多職種連携・多職種チームにおける協働 1)多職種チームでかかわる意義 2)多職種チームとの連携・協働の実際 3)看護師の役割	
2 地域・在宅看護における療養環境調整の実際	6	1 地域・在宅看護における療養環境 1)療養環境のアセスメント 2)療養環境調整の実際 2 地域・在宅看護における安全対策 1)暮らしを取り巻くリスク 2)安全確保の方法と対策 3)医療事故の種類と対策 4)災害への対策	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、レポート等		
テキスト	医学書院 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践		
参考資料	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護論援助論Ⅱ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次
<p>目的: 在宅療養を支える訪問看護について理解し、居宅における看護の役割を学ぶ。</p> <p>目標: 1 訪問看護ステーションの概要及び活動内容を理解できる。 2 訪問看護制度に基づく看護について理解できる。 3 訪問看護の対象の特徴を理解できる。 4 居宅におけるケアマネジメントや社会資源の活用方法について理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 訪問看護の概要と在宅看護に関わる制度	15	1 訪問看護サービスのしくみと提供 1) 訪問看護とは 2) 訪問看護の創設と発展の経緯・現状 3) 訪問看護制度(在宅看護に関わる制度とその活用) 4) 訪問看護ステーションのしくみ (1) 開設基準と従事者 (2) 法に基づく訪問看護事業 (3) 訪問看護利用までの流れと費用 (4) 訪問看護サービス提供	
2 訪問看護の対象への看護の実際	10	1 訪問看護の対象の特徴 1)対象の多様性 2)対象の個別性を尊重した看護 2 家族への支援 1)家族を支援する基本的姿勢 2)療養の場における家族の捉え方 3)在宅療養者と家族への看護	
3 居宅におけるケアマネジメントと社会資源の活用	4	1 居宅におけるマネジメントとその実際 2 社会資源の活用	
	1	試験	
評価方法	筆記試験		
テキスト	医学書院 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践		
参考資料	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護論援助論Ⅲ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次
目的: 在宅看護における援助を実践するための基礎的知識と技術を習得する。 目標: 1 在宅看護活動に必要なコミュニケーション技術が理解できる。 2 在宅看護に必要な看護技術を理解し、基本技術ができる。 3 対象者の病状経過の予測や予防的支援に関する基本的技術ができる。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 在宅で求められる看護技術	29	1 在宅看護活動を支えるコミュニケーション 1) 訪問看護におけるマナー 2) セルフケアを支える対話 2 在宅看護に必要な病状・病態の予測と予防 1) ヘルスアセスメント 2) フィジカルエグザミネーション 3) 健康行動理論・セルフケア理論の活用 3 呼吸・循環に関する在宅看護技術 1) 呼吸・循環のアセスメントと援助 2) 在宅酸素療法(HOT) 3) 人工呼吸療法(NPPV・HMV) 4 食生活・嚥下に関する在宅看護技術 1) 食生活・嚥下のアセスメントと援助 2) 経管栄養法(経鼻・胃瘻) 3) 在宅中心静脈栄養法(HPN) 5 排泄に関する在宅看護技術 1) 排泄のアセスメントと援助 2) おむつ交換・摘便 ※1 3) 膀胱留置カテーテル 4) ストーマ管理 6 移動・移乗に関する在宅看護技術 1) 在宅での移動・移乗に関するアセスメントと援助 2) 福祉用具の活用 7 清潔・衣生活に関するアセスメントと援助 1) 清潔のアセスメントと援助 2) 入浴・清拭 3) 褥瘡の予防とケア 8 疼痛緩和に関するアセスメントと援助 1) 苦痛と安楽のアセスメント 2) 苦痛・安楽への援助	
	1	試験	
評価方法	筆記試験		
テキスト	医学書院 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践 インターメディカ 写真でわかる訪問看護アドバンス		
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。		
履修上の留意事項	予習復習をして臨むこと。		
備考	※1 は演習を行う。		

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護論援助論Ⅳ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次
目的:看護の介入時期と看護の継続性について学び、在宅看護における対象別看護の特徴を理解する。 目標: 1 在宅看護介入の目的と方法特徴について理解できる。 2 対象別看護の特徴と支援方法について理解できる。 3 訪問看護における看護過程の特徴が理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 地域・在宅における時期別の看護	10	1 病状経過の時期別に応じた看護と継続性 1) 健康な時期 2) 外来受診期 3) 入院時 4) 在宅療養準備期 5) 在宅療養移行期 6) 在宅療養安定期 7) 急性増悪期 8) 終末期(グリーフケアを含む)	
2 対象に応じた在宅看護(事例)	8	1 医療的ケア児への看護 2 精神疾患の療養者への看護 3 難病(ALS)を持つ療養者への看護 4 独居の療養者への看護	
3 訪問看護を利用する対象者の看護過程	11	1 訪問看護の看護過程の展開 ※1 1) 看護過程展開の特徴 2) ICF の概念 3) 訪問看護利用者の全体像の把握と臨床判断能力	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、レポート		
テキスト	医学書院 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践		
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。		
備 考	※1 はロールプレイを行う。 単元3 訪問看護の看護過程の展開では、実際に訪問する場面でのコミュニケーションや援助を通して、訪問看護における臨床判断能力や意図的な観察の必要性が理解できるよう、グループに分かれてロールプレイを行う。		

地域・在宅看護論実習

目 的

地域で暮らすあらゆる発達段階や健康段階にある対象の生活背景や地域における保健・医療活動を理解し、健康の保持増進や健康状態に合わせた在宅看護を実践するための基礎的能力を習得する。

目 標

- 1 人々の暮らしを知り、対象の発達課題や健康障害による身体的・心理的・社会的な特徴を理解できる。
- 2 地域の保健・医療を支える施設の特徴と看護の役割を理解できる。
- 3 在宅における健康障害のある対象への看護活動の場を理解し、対象の意思を尊重する看護を理解できる。
- 4 対象の生涯に応じて切れ目のない保健活動や看護活動の必要性を理解できる。
- 5 多職種連携のあり方を理解し、社会資源の活用と地域における看護の役割について理解できる。

地域・在宅看護論実習Ⅰ

〔2単位 90時間〕

目 的

在宅で療養する対象者とその対象を取り巻く環境を理解し、対象に応じた看護が実践できるための基礎的能力を習得する。

実習時期及び期間

2～3年次 12日間

地域・在宅看護論実習Ⅱ

〔2単位 90時間〕

目 的

地域で生活するあらゆる健康段階や発達段階にある対象に対する保健活動・医療活動を理解し、健康保持・増進、健康管理や生活活動の維持を目指した援助を実践できる基礎的能力を習得する。

実習時期及び期間

3年次 12日間